

今さら聞けない AI(11) ①AI依存症

これまで、AI が役立ちそうな応用例を中心に解説してきました。しかし、科学技術は、メリットが大きければ、弊害も大きいことは、原子力(原爆、原発事故)や遺伝子工学(食品安全性、生態系破壊)等で身をもって学んできた所です。AI についてはまだ手探りですが、早めに弊害と向き合っておくことが大切です。シリーズ最終の数回においては、AI の弊害について概観します。

弊害の代表例として、①AI 依存症、②電力消費の急増、③データの大規模消失、④AI兵器など4つの問題を取り上げます。

まず、①AI 依存症です。既にスマホについては、平均で1日4時間、若者の2割は7時間も使い、「スマホ脳」になっていると報告されています。SNS 企業がスマホ依存を促進するような開発を行っているとの内部告発もあります。目下は SNS や検索エンジンが主用途ですが、AI が絡み出すと、「スマホ脳」から一気に「AI 脳」に飛躍していくことが危惧されています。

想えば、600万年にも及ぶ壮大な人類進化の中で、人が科学と付き合うようになったのは直近の僅か400年間です。99.99%の期間は、飢餓で栄養状態も劣悪だったため、エネルギーの必要な前頭葉による論理的思考ではなく、辺縁系による情動に任せた短絡的思考がメインでした。「なぜ？」と考えるよりも、神や偉い人に正解を求める思考習慣は今も主流です。SNS でも、「みんなが言っているから正しそう」という付和雷同は、去年の兵庫県知事選でも顕著でした。

AI 普及当初は、「AI が人間に追い付いてきたらどうしよう？」という漠たる不安が主でしたが、最近では、さらに恐ろしいことに、「人間が AI に似てきたらどうしよう」という一層深刻な問題が浮上してきています。

(竹の台 西元)

